
現実...恋...2

奏眼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

現実…恋…2

【Nコード】

N8403C

【作者名】

奏眼

【あらすじ】

一日目です、あたしは何て事ない日々をまた繰り返すのですが…

一日目

一時間目なのに疲れた。

毎日の授業なんてものは、只の時間潰しに過ぎない。

あと何分何分と、時計と睨み合う。

残り10分になって活力が起き、大半は空を仰ぐ。

思い出すのは、愛されて愛して生活した日々。

悲しくなないと吠えては虚しくなる。

本当は寂しい、構ってほしい。

言えるわけ無い、

もう彼はあたしの元に居ない。

周りの友達は頑張れと悪いが気休めにしかない言葉を掛ける。

あたしは

ありがとうと笑う。

笑えるわけ無い。

申し訳無いけれどあなたたちは解らないよ、

あたしも解らないもの、
人の痛みなんて。

時間は飛ぶように過ぎる。

あたしは
味の無いお昼をまた、皆と食べている。

笑いながら。

誰かが購買へ行こうと行った、

あたしはなかば強引につれて行かれる。

ちょっと、早く、売り切れちゃうじゃん！

ご、ごめん！

足早に手を引かれ走っていく。

購買はいつものように混んでいた。

おばちゃんも大変そうだ。

友達のかきわけかきわけ品物に近付いていく。

あたしもその背中に付いて中に潜る。

人混みは嫌いで、
避けていたいのに。

そう思って顔を上げた。

溢れる人の
ずっと奥、
購買の前の廊下

あなたが居た。

いつものように
友達と笑いながら、
歩いていた。

声もかけられないあたし。

あなたは通り過ぎた。

綺麗な黒髪、
無邪気な笑顔、

ああ、

あなただ。

あたしが愛して止まないあなただ。

あたしが大好きな

あなた
だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8403c/>

現実...恋...2

2011年1月28日04時55分発行